

“チカラマチ”・“ノリタケ”のブランドで陶磁器の輸出

森村組は 1892（明治 25）年に名古屋店を開設し白色陶磁器の国産化に取り組んだ。1896（明治 29）年に東京など各地に散在していた絵付け工場を名古屋市東区主税町（現：主税町公園付近）に集中させた。当時の製品はハンドメイドで絵付けの美しさ、細工の繊細さで“チカラマチ”ブランドとして知られる。



チカラマチブランド



森村組絵付け工場



主税町公園

1904（明治 37）年、森村市左衛門、大倉孫兵衛らが日本陶器合名会社を設立し、1906（明治 39）年に現在の西区則武に近代的な製土工場、成型工場、釉薬絵付け窯工場などの一貫生産工場を建設した。

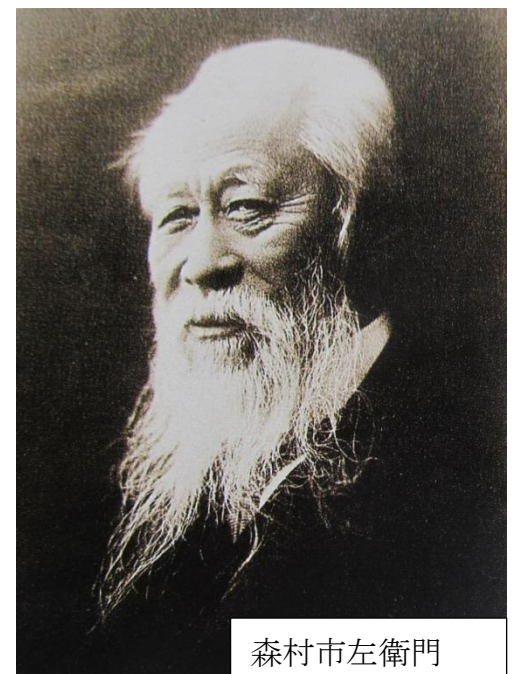
ここでアール・デコを基調としたデザインの食器が大量にノリタケ・ブランドとして生産、輸出された。陶磁器愛好家の間ではオールド・ノリタケとして知られる。



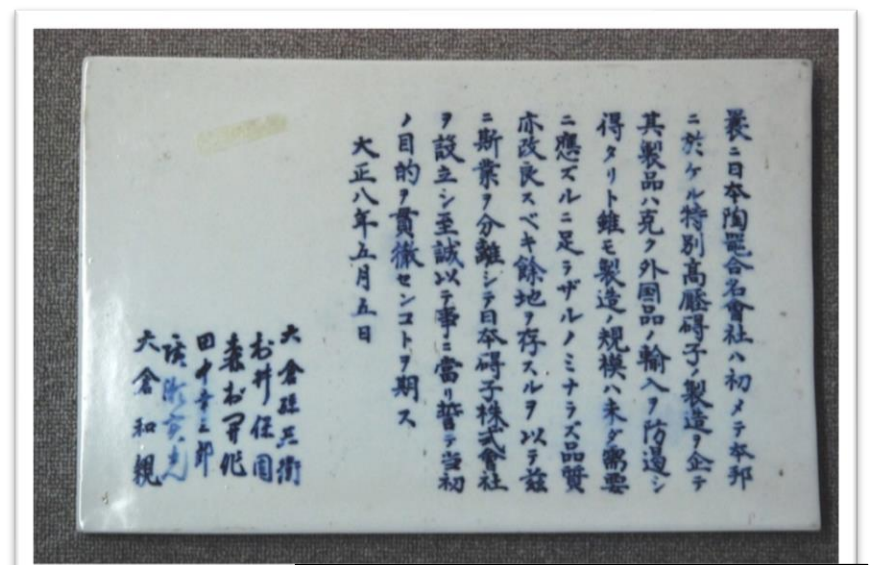
日本陶器創立時の工場



ノリタケブランド



森村市左衛門



日本ガイシ「創立の誓」陶板

その後、日本陶器は 1917（大正 6）年に衛生陶器の量産化に成功、九州の小倉に東洋陶器（株）（現在：TOTO）を設立、また送電用に使われる高圧碍子の研究・開発が行われ 1919（大正 8）年に日本碍子（株）（現在：日本ガイシ）を設立、さらに 1936（昭和 11）年に日本碍子から日本特殊陶業（株）を分離独立させた。このように森村グループは一業一社の精神で各会社を分離独立させた。